

株式会社 ニッシンホーム
株式会社 日新工業

大阪府大阪市天王寺区大道 5-6-8

西本 祐樹



不動産・建築業の『ニッシンホーム』と解体工事を手掛ける『日新工業』。2社の代表を務める西本社長は、16歳で解体業に飛び込み、30歳で独立、2019年に法人化を実現し、さらに2022年には新たに不動産業にも進出。解体から建築までトータルにカバーする体制を整えた。本日は俳優の大沢樹生氏が訪問し、様々なお話を伺った。

西本 祐樹
| 代表取締役 |



大沢 樹生
| 俳優 |

16歳で解体業に飛び込み、この道一筋に18年！ 新たに不動産・建築業も始動し、連携させながら事業を展開

まずは西本社長の歩みから。

大阪府松原市出身です。学生時代は真面目ではなく、朝、どうしても起きられなかったことが原因で高校には90日しか通いませんでした（笑）。その後、母の勤め先のお客さんからの勧めもあり、16歳で解体の仕事に飛び込んだんです。

現場の仕事だと、むしろ朝が早かったりするのはないですか。

しかし、実際に始めてみると、これが面白くて。仕事が好きになって、自然に意識がシフトしていききましたね。私自身、社会に出てからはとにかく真面目に歩んできました。解体業界は変わった人間が多く、だからこそ自分はしっかりしなくてはと思ったのかもしれない（笑）。

若くして「楽しい」と思える仕事に出会えるってそうそうないですよ。お仕事の魅力はどんなところにあるのでしょうか。

世間的にきつい・汚い・危険——「3K」と言われる仕事ですが、大きな建物が崩れていく瞬間の爽快感があり、重機に乗りどるの順番なら早くきれいに、安全にできるかなどを考える、ゲーム的な楽しさがあるんです。社長になった今でも現場に出て重機に乗っているんですよ。今日は1日現場という日は、嬉しくてたまりませんね（笑）。私にとって解体は、仕事というよりも趣味みたいなものです。

今も第一線で頑張っておられて。そこから解体の仕事一筋なのですか。

ええ。29歳まで13年間、2〜3社で経験を蓄積し、今から4年前の30歳の時に独立しました。独立の際には知り合いの社長さんが背中を押してくださって。不安もありましたが、一度やってみようと決意し、勤めていた会社の下請けからスタートしました。そこから着実に歩みを進め、2019年に『日新工業』を設立した次第です。

順調にいられてなによりですね。新たに不動産会社も立ち上げられたとか。

はい。『ニッシンホーム』の林金顧問は独立したところからの知り合いで、解体のお仕事を持ってきてくれていたんです。そのお付き合いの中で「一緒に不動産業をやりよう」という話になったんです。現在は2

Commemorative Photo



社で連携して、不動産から解体、建築、リフォーム、さらに遺品整理までトータルに手掛けており、お客様の様々なニーズにお応えできるようになりました。

頼もしい存在もおられ、良かったですね。現在、従業員さんは何名おられて？

不動産のほうは私を含め3名、『日新工業』のほうは10名ほどです。協力会社も含めれば、常時20名以上で動いています。

では、お仕事をされる上で、大事にされていることは何でしょうか。

「人に迷惑をかけること」につきます。解体工事というのは、騒音や振動、ホコリなどどうしても近隣の皆さんにご迷惑をおかけしてしまうもの。それは建築やリフォームも同じ。それでもできるだけの努力をして、近隣の皆さんへのご挨拶も徹底し、少しでもご理解いただけるよう心掛けています。

最後に将来の展望を教えてください。

特に会社を大きくしたいとは思っていません。大好きな解体で社会に貢献し、皆の「ありがとう」を聞くため、生涯現役で頑張っていきたいですね！



「西本社長のお話を伺っていると、本当に解体というお仕事がお好きだということが伝わってきました。単に建物を壊すだけでなく奥深い手法があって奥深いお仕事だということわかりました。新規事業もはじめられ、楽しみです！」

guest comment